

# 深浦会東京だより

第25号

深浦会東京 事務局  
〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-23-7  
トポス M. 駒沢102  
TEL 03-3418-0914  
FAX 03-3422-0483

## 第15回定期総会・交流会

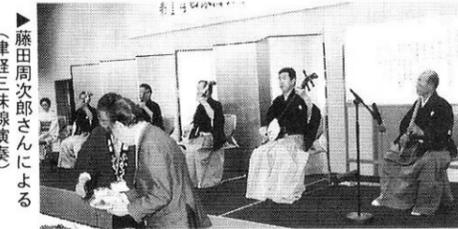
### 今年も来てくれ!! 食べてくれ!!

深浦会東京会長 小野 秋夫



会員のみならずにはお変わりありません。今年も深浦会東京総会交流会の時を迎えました。この一年間、昨年の総会でご賛同いただいた「ふるさと交流ツアー」「ふるさとと交流ツアー」との交流促進・組織の統合等、一つひとつ具体的に活動を進めることができました。皆さんのご協力に心からお礼申し上げます。

▼「ふるさと交流ツアー」故郷のよさを再発見!!



津軽三味線演奏 (津軽三味線演奏)



交流会の開始!! 乾杯!!



海鵜関を囲んで

さとう深浦町。安美錦・海鵜・将司・安荘富士と現役関取四人の「故郷に錦を飾る」勇姿をぜひ日本海をバックに見てみたい。「深浦のお相撲さん」を励ます会」からのご案内もあるかと思いますが、この夏の里帰りの日程に是非今から「深浦場所」への参加」を加えてくださるようお願いいたします。

十月二十一日から二泊三日の予定で、ふるさと訪問交流ツアーを行います。若さ溢れる二十名の参加がありました。チャンチャンまつり、円覚寺、日本一の大イチョウ見学、そして、生まれてはじめての「三十三湖めぐり」など改めて、故郷のよさを再発見。感動しました。

▼十二湖人会との交流の更なる発展を願って!!

「深浦会東京」と「ふるさと十二湖人会」は、町の合併にともなう、組織の統合と更なる交流活動を進めていくことを確認し、町当局にもその旨の報告をいたしました。平成十九年度からは、当

面「深浦会東京」が名称等現在のままで、新生「深浦町」のふるさと会を代表して「補助金等の申請」「総会・交流会のご案内」等について、「深浦町」との報告・連絡・相談等の窓口にあたることになっております。地区・地域の垣根を取り払って、声かけあって「ふるさと深浦まつり」に大勢ご参加くださるようお願いいたします。

▼今年の夏は大相撲巡業「深浦場所」開催!!

今年の八月六日、北金ケ沢地区を会場に大相撲巡業が開催される運びとなりました。「一つの町から関取四人」と全国的に有名になった我がふる

さとう深浦町。安美錦・海鵜・将司・安荘富士と現役関取四人の「故郷に錦を飾る」勇姿をぜひ日本海をバックに見てみたい。「深浦のお相撲さん」を励ます会」からのご案内もあるかと思いますが、この夏の里帰りの日程に是非今から「深浦場所」への参加」を加えてくださるようお願いいたします。

青森県の市町村財政担当課長会議において、県内の赤字団体は四団体(黒石市・むつ市・深浦町・野辺地町)〇五年度決算」と指摘された。(陸奥新報)一九・一・二七」と報じられているように、今我がふるさと深浦町も厳しい財政状況下におかれています。平成十九年度の「深浦町の財政査定」では、「深浦会東京」に関する補助金も20%カット、町からの参加人員、郷土料理等も大幅に減になるという通知がありました。会員の皆様には「深浦町」の厳しい財政状況に心を留めていただき、自分たちの手で創り上げる「深浦会東京」総会・交流会を目指して、昨年にも増してのご出席、ご支援をよろしくお願申し上げます。

近年稀な雪の少ない暖冬のせい、白神山地の芽吹きも感じられる今日この頃、「深浦会東京」会員の皆様におかれましては各分野において益々活躍のこととお慶び申し上げます。



豊かな「わ」を「き」なぐ活気に包まれる  
「深浦」のまろしさを旨くして  
— 深浦会東京の定期総会に寄せて —  
深浦町長 西崎 哲

日本経済は、「いざなぎ景気」を越えて戦後最長の景気拡大が続いているという政府の景気判断が、深浦町ではなかなか実感できない状況にあり、地方は依然として厳しい経済状況が続いています。が、町合併3年目を迎

え、行政は、「町民の命と財産を守り、町民に利益をもたらすために、継続したサービスを提供する機関である」という信念に基づき、「豊かなわ」を「き」なぐ活気に包まれる深浦のまろしさを旨くして、今年の干支「亥」のように一筋に邁進する

覚悟であります。さて、昨年度を振り返ります。松くい虫被害の拡大懸念、平成15年から続く大型クレーンによる漁業被害、夕張市の財政破綻をきっかけとして噴出した自治体財政問題の中で、当町の名前も取り沙汰されるなど、明るい話題の少ない、

が、やはりこれには限界もあることから、2月16日刑事告訴したところでありました。何れにいたしましても、万が一にも町が損害を被るような事態とならないよう、毅然とした態度をもって対処していかなければならないと考えているところであり

ります。更に、県境まで迫った松くい虫被害の拡大懸念、平成15年から続く大型クレーンによる漁業被害、夕張市の財政破綻をきっかけとして噴出した自治体財政問題の中で、当町の名前も取り沙汰されるなど、明るい話題の少ない、

おきましては、複合経営の確立を目指して推進してまいりました。夏秋トマトの生産販売額が前年の1億円を達成いたしました。このことは、生産者のみならず、一次産品を基幹産業とする町にとって大変喜ばしく、今後大きく希望が持てる出来事と思っております。

開催日	イベント名等
平成19年 4月27日(金)	深浦町山開き・白神春もみまつり(十二湖) (登山客や森林浴に訪れる観光客の災害、交通事故等の撲滅を願い、安全祈願する)
7月13日(金)	海開き安全祈願祭(岡崎海岸) (町内海水浴シーズンの幕開けを広くPRする)
7月29日(日)	第18回影の浜ビーチバレーボール大会(大間越影の浜) ※町体育協会 (スポーツ振興と海岸愛護の思想啓蒙を図る)
8月6日(月)	大相撲夏巡業夕陽海岸深浦場所 ※実行委員会 (北金ケ沢地区埋立地ソフトボール場を会場とし、総勢240名の力士が出演予定。町出身関取4人衆の活躍に期待)
8月14日(火)~15日(水)	黄金の日本海「深浦海まつり」(夕陽海岸) ※実行委員会 (お盆期間中の帰省客並びに観光客の憩いの場の提供)
8月24日(金)	いわさき賽の河原大祭(森山海岸) ※地元有志の会 (森山海岸の賽の河原でイタコの口寄せ等を行い、観光客の誘致を図る)
9月23日(日)	夕陽海岸マラソン大会(ウェスバ橋山) ※実行委員会 (町のリゾート施設であるウェスバ橋山で健康増進のためマラソン大会を実施する)
10月20日(土)~21日(日)	津軽深浦チャンチャンまつり(夕陽海岸) ※町観光協会 (一次産品の消費拡大等による地域活性化を目指す)
10月中旬~11月上旬	十二湖紅葉ウィーク(十二湖)(予定) (津軽国定公園十二湖の紅葉を村内外にPRし誘客促進と町の活性化を図る)
12月8日(土)~9日(日)	第20回ヨールブックまつり(サンタランド白神) ※サンタランド白神 (北欧フィンランド国ラヌア郡と姉妹都市を締結している当町でサンタクロースのまつりを開催し、子供たちに愛と思いやり、そして希望を与えるメルヘンチックなまつり)
平成20年2月(毎週土曜日)	グルメinふかうら(深浦町内) ※町観光協会 (1年で最も豊富な魚種が水揚げされる時期に町内各宿泊施設において冬季におけるツアー誘客を図る)

平成19年3月吉日

### お知らせ

「深浦会東京」第15回定期総会・交流会の開催について

深浦会東京 会長 小野 秋夫

拝啓  
春暖の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃、当会の運営につきましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、第15回定期総会・交流会を下記のとおり開催いたします。深浦町からも町長をはじめとして関係者の方々が参加されますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願い申し上げます。敬具

記

- 日時 平成19年4月28日(土)午後1時より
- 場所 きゅりあん(品川区総合区民会館) 東京都品川区東大井5-18-1 ☎03(5479)4100
- 交通 JR京浜東北線大井町駅下車南口徒歩1分、東急大井町駅下車徒歩5分
- 会費 1人7,000円(年会費2,000円を含む) 同伴家族1名増すごとに5,000円加算。但し高校生以下は無料。
- 申込方法 同封の「はがき」に必要事項を記入し、4月10日までに返送下さい。

※当日、ご出席できない方は年会費(2,000円)を別紙郵便振替払込書にてお振り込み下さい(平成18年度振込実績230名余)。なお、振込手数料は、当会にて負担いたします。  
※「広報ふかうら」の新規購読をご希望される方は、別紙郵便振替払込書にて購読料(2,000円/年)をお振込み下さい。  
※会場でのスナップ写真の撮影は致しませんので、写真を撮られる方は、インスタントカメラ等をご持参下さい。

以上

ハードの面では「岩崎松神地区コミュニティセンター」の新築、そして懸案となっていた全町防犯行政無線の統合・デジタル化が完了しました。岩崎消防分署についても本年3月完成・移転いたしました。ソフト面としては、新町の町づくりの拠り所となる「町民憲章」と岩崎地区の自然・風土をたたえる詩を加えた「新・深浦賛歌」の制定など、地域住民の一体感の醸成を促す事業を実施したものであります。今年度は、深浦町にとりましては財政が非常に厳しい状況となっております。これまで以上の徹底した歳入の確保、歳

「ふるさと交流ツアー」  
チャンチャン祭りりと十二湖散策(平成十八年十月二十一日より2泊3日)参加者は会長を含め全員(男性10名に女性10名の同数)で20名でした。

羽田を9:15分発(A NA 873便)で秋田空港へ向かう。時刻10:30に秋田空港に着陸した。到着ロビーで深浦町から迎えに来た案内人の説明を受け、町でチャーターしたバスにて一路深浦町観光へと向かった。車内では、津軽ナマリの案内人からこれからの観光行事等の説明を受けながら、海岸線を走るバスの窓からふるさとの景色を堪能しているうちに、チャンチャン祭り会場へ到着した(13:30)。出店の売り子、お客さん、係員等で大賑わいの中、確保されていた席でチャンチャン焼きの昼食となる。東京からの参加者は、初めて食べる人も多く、サクッと野菜を味噌で焼く美味しさに驚き、次々に差し入れられた料理、酒、ビールで満腹になり次の観光へ。

円覚寺、風待ち館、ふかうら文学館(旧秋田屋旅館)と見学し、ウェスパ椿山(チェックイン、ドーム型露天風呂で一風呂浴び、全員レストランで夕食の後それぞれ宿泊のコーテージへ解散となる。6人で宿泊している当部屋へ地元で居る妹夫婦が尋ねて来たのが21:00頃。酒と、深浦料理の差し入れに、深浦での説明が可笑しいと大騒ぎとなり、入床したのが0時を過ぎていた。明けて二十二日、2班に分かれての観光となる。昨夜の酒がまだ覚めやらぬ朝、6時からの

で校長をしていた工藤アイドが付き、流暢な案内で、青池、ナ自然林、沸湯の池、長池、リフレッシュ村(昼食)、金子山の池、四郎の池、金山の池、青池、十二湖挑戦館まで、少々疲れはあったがみな大満足の散策であった。ひと休みしているうちに、三十三湖を散策した1班と合流し、バスにて帰路についた。そのあと、予定には無かったが不老死温泉に案内された。波打ち際の露天風呂に入浴できたことで、みんなどんどん疲れを癒して、ウエスパ椿山(チェックイン)の上の大宴会となる。今夜も0時を過ぎての入床となる。

最終日は深浦町役場庁舎での町長との懇談会。朝、迎えに来たバスに乗り庁舎へ、職員の手で始まった懇談会。気さくな町長を前に、今回の旅行企画のお礼、要望、提言など一人ひとりの発言に対し、町長からの丁寧な回答があり、予定時間を大幅に遅れての散会となった。その後日本一の北金ヶ沢の大イチョウ、風合瀬のイカ焼き村へ。深浦土産を購入して次の目的地、岩崎のサンタランド。岩崎のカッパチ達創作した田舎料理で昼食をとり、帰路秋田空港へ。羽田に到着したのが、18:30分。楽しかったふるさとの数々の思い出を胸に「ふるさと交流ツアー」の旅の解散となった。

### 「ふるさと交流ツアー」に参加して!!

黒滝茂則  
(追良瀬出身)

朝風呂へ。水平線を見ながらノビリの一風呂。第一班の出発時間、8:30分出発で約7時間、三十三湖めぐりコース(半数の10名)の出発を見送った。第二班は9:20分送迎バスで十二湖へと向かう。小学生、中学生の時から何度か来ている十二湖ではあるが、昔とは大変な変化で、素晴らしい観光地に開発されていた。2班には元、明道小学校

夕食は宴会場での懇親会。郷土料理で酒とカラオケでの大宴会、大変な盛り上りのうちに時間(21:30)となり解散となった。今夜もまた妹夫婦からの差入れがあり、近海魚の刺身、アワビ、サザエのつぼ焼き、大山のブドウ等と、酒、ビールを持参、またまた宴会開始。1人、2人と人数が増え、終了間際は10人

この旅で初めて知り合った方々からは後日、お礼の電話などが沢山あり、またこんなすばらしい企画があったらみんなに参加を勧めますとのうれしい言葉があった。



西崎町長との懇談会



十二湖にて



ふかうら文学館にて。ハイポーズ!!

### ◆連載◆ 深浦の文化遺産 ④

深浦町文化財審議委員  
森山嘉蔵

一、深浦の文化財

#### 8. 円覚寺の船給馬他(海上信仰資料)

国指定重要有形民俗文化財(昭和五十六年四月二十一日指定)

北国津軽の風待湊として有名な深浦には、古い時代から多くの船が出入りした。波荒い日本海を航海する帆走船は、常に遭難の危険を負っていたものである。船乗り達は航海安全を、十一面観音菩薩を祀る円覚寺に船給馬を奉納して祈願したものである。江戸時代後半からのものが多いが、数多い船給馬の中で最も古いものは、寛永十年(一六三三)に越前敦賀の庄司太郎左衛門が奉納した北国船の船給馬(本邦唯一とも)である。また、船乗り達が狂風怒涛の航海で、あわや海難の危機を、十一面観音に縋って乗り切れた感謝の

#### 9. 磐境神社の夫婦杉と石動の夫婦銀杏 天然記念物(平成五年十一月二十五日町指定)

地域の人々には、「大童子沢目」と通称されている岩坂集落の指定文化財である。磐境神社は、その昔からの大童子村の種阿宮に、石動村の熊野宮、その末社の山神宮(元禄十一年(一六九二)大童子・岩坂・石動の三カ村で再建)を明治四十年に合祀して「磐境」と改称した神社である。それより以前の享保三年(一七一八)に大童子村が種阿宮を現在地に移宮した際に植栽したのがこの夫婦杉である。樹幹の周囲は宮社に向かって右が三、六メートル、左が四、二メートルの巨杉で、およそ三百年という歳月の藩政期・明治・大正・昭和・平成期の激動の時代を、仲の良い夫婦のように寄り添って、大童子川流域に生きた人々と共に歴史を重ねてきた老樹である。

#### 10. 森山館跡 史跡(昭和五十一年十一月二十四日町指定)

森山館は戦国時代と近世初期の二度の合戦があった城郭跡といわれている。その一つは、戦国中期の頃の岩崎及び深浦の一部地域は、出羽国河北郡深浦郷と言われ、秋田松山城主である湊安東藩の所領であった。秋田と津軽の国境を守護する森山館の城主は一族の飛騨守守定であった(この頃の国境は船作崎から中山峠付近と考えられる)。天文十五年(一五四〇)春、この季節に謀反の動きがあり、湊安東氏惣領の舜季は、急使をつ

かわして改め登らせさせた蝦夷ヶ島花沢館主蠣崎季広と共に、森山館の季節を攻撃して、これを討伐するという激しい合戦があった(松前正史「新羅の記録」より)。その二つは、天下分け目の関ヶ原合戦後の慶長八年(一六〇三)に、津軽藩と佐竹藩は、藩境を大間越村領「須郷崎」に定めた。それから四年後の慶長十二年、津軽家に「御家騒動」が起きた。藩祖の信はその死に際して、二代藩主を三男信牧として幕府に届け出た。これに対して、為信嫡男信建の遺信熊平代こそ正當の跡目相続人とする一派が反信牧の旗を挙げたものである。重鎮である藩境検査職として境城である森山館に入っていたのは、為信の麾下で水軍の勇将とされた小野佐右衛門であった。佐右衛門は反信牧派であった。津軽藩は岩崎及び大間越地域の地侍であった世森勘解由左衛門・菊池刑部等に兵を与え、反徒討伐として森山館を攻め、甲人同志が相戦うという壮烈な攻防戦の中で佐右衛門(茶右衛門とも)を討ち取ったと言われている。森山館は国境の城館特有の歴史を内包する貴重な館跡である。

### 連載④ 健康

#### 継続させた私の『三年日記』

国際スロージョギング協会代表/看護師 奈良岡 絢子

江戸時代の儒学者・貝原益軒は、養生訓の中で次のような教訓を後世に残している。「健康は金銀財宝よりも優る。養生の術を学び、持続して実行すれば、身体は健に病むことなく、天寿をまっとうできる」と。



「三年日記」のお陰で、私が三年日記を書き始めるから一五年になる。厚ぼったくなった日記帳が五冊。とても気に入っている。一冊目(坂道や階段を前向きや後向きで上ったり下ったりを繰り返す運動)を簡単に、生涯健康への最短距離だから、続けたい。でも私は三日坊主だから、「とあきふれるようになったら、なんと壮快なことか。医療費の大幅削減。そして強制的に引かれる介護保険料に「ガクッ」とすることもなく、そ

の費用をそっくり孫と貝原益軒は、養生訓の中で次のような教訓を後世に残している。「健康は金銀財宝よりも優る。養生の術を学び、持続して実行すれば、身体は健に病むことなく、天寿をまっとうできる」と。

たこと、徐々に徐々に薄皮を剥ぐように、喘息発作が軽減していった様子、「もう大丈夫、喘息にサヨナラよ」と安心して途端に強い発作を受けたことなど、私の歩んだ道すべてが凝縮されている。これまで自分なりに諸々実験を重ねながら、昇る太陽のエネルギーをいただき、四季折々の自然の移り変わりに感動して、戸外でのスロージョギングを楽しんだ。今年以外でのスロージョギングができない人を目指して、家の中で一段活用をやってみることにした。一八冊ほどの本を束ね、宅急便の袋に入れてガムテープをぐるぐる巻きにした私製即興段差器で、高さ14cmである。やり方は、右足から